

台海報第四號附錄

旗普第七九九號

常備艦隊征灣第一回報告

廿八年五月十八日大本營ヨリ左ノ命令アリ

命令海第二號

一、貴官名灣及澎湖嶋派遣中ハ名灣總督子爵樺山資紀ノ指揮ヲ受クベシ

二、松嶋、高千穂、浪速、千代田、大嶋、西京丸及第四水雷艦隊母艦近江丸病院及供給船神戸丸、造船及兵器工作船元山丸ヲ名灣及澎湖嶋ニ派遣セシム

三、西京丸、神戸丸、元山丸ハ此命令到達ノ日ヨリ一時貴官ノ指揮下ニ入ラシム

四、巖嶋、楢立、吉野、秋津洲、筑紫、赤城、鳥海、摩耶、愛宕、磐城、八重山及第一

水雷艇隊第二水雷艇隊第三水雷艇隊ト母艦山城丸ハ此命令
到達ノ日ヨリ一時西海艦隊ノ指揮下ニ入ラシム

明治二十八年五月十八日

大本營

常備艦隊司令長官有地品之允殿

五月十八日台湾總督ヨリ左ノ命令アリ

名命第一號

一、本官ハ台湾嶋ヲ收領シ台北府ヲ以テ駐劄ノ地ト定メントス
若シ彼ノ軍隊ニシテ我ニ抗セハ兵力ヲ以テ之ヲ擊攘セント
ス

二、我陸海軍ノ集合点ヲ沖繩縣下中城灣トナス

三、貴官ハ本月廿八日迄ニ部下ノ各艦ヲシテ中城灣ニ集合セシ

ムヘシ但澎湖嶋ニアル艦船艇ヲ除ク

四、貴官ハ部下ノ軍艦ヲシテ名湾東岸ノ蘇澳ヨリ以北「サンチヨ」
ウ角附近及其西岸淡水港ヨリ以南「ゴウガン」コウ附近並ニ其
西南岸打狗港安平鎮附近ノ沿岸ニ於テ上陸ニ適スヘキ地
点ヲ偵察セシメ成ルヘク速ニ中城湾ニ於テ其結果ヲ本官ニ
報告スヘシ

明治廿八年五月十八日

名湾總督樺山海軍大將

當時麾下艦船ノ所在ハ左ノ如シ

松嶋(司令長官ノ旗艦)ハ神戸港

浪速(司令官ノ旗艦)

ハ長崎港

高千穂

手代田

大嶋

ハ西海艦隊ノ任地ニアリ

西京丸ハ佐世保ニ向ヒ歸航中

第四水雷艇隊

母艦近江丸

病院船及供給船神戸丸

造船及兵器工作船元山丸

ハ澎湖嶋ニアリ

此ニ於テ本官ハ旗艦松嶋ヲ吳港ニ廻ハシ出艦ノ準備ヲ整ヘ且ツ

左ノ命令ヲ發ス

旗令第一號

一、貴官ハ浪速高千穂ノ兩艦ヲ卒ヒテ先ツ台灣淡水港ニ至リ同
港ノ狀況ヲ觀察シ次テ同嶋東岸蘇澳灣ヨリ以北三貂角及冷
水港附近ノ沿岸ニ於テ陸軍兵ノ上陸ニ適スル地点ヲ搜索シ

成ルハク来ル廿八日迄ニ沖繩縣下中城灣ニ来リ復命スハシ
二福嶋陸軍大佐安原海軍少佐及嶋村外交官ハ来ル廿二日頃長
崎着ノ上乘艦スル筈ナリ故ニ之ヲ待テ直チニ出港諸事右諸
官ト打合スハシ

明治二十八年五月二十日 吳港ニ於テ

有地常備艦隊司令長官

東郷常備艦隊司令官殿

軍艦千代田及大嶋ハハ西海艦隊司令長官ヲ經テ来ル廿八日迄ニ
中城灣ニ集合スヘキ旨ヲ電報シタリシガ五月廿一日附威海衛發
ニテ只今大嶋ニハ傳達ストノ報ニ接ス
又五月二十日附馬關發電報ヲ以テ大總督府海軍參謀官ヨリ千代
田ニ大總督府凱旋ノ途上大總督護衛ノ任務ヲ終ヘハ常備艦隊ニ
合スヘキ旨去十五日命令相成タリトノ報ニ接ス

西京丸ハ五月廿二日午後佐世保ニ着港汽罐漏水甚シク此儘使用
シテハ危険ヲ冒スノ恐レアリ工事日数大凡十四日着手スベキヤ
御指令ヲ待ツト該艦長ヨリ電報アリ依テ左ノ命令ヲ發ス
其船ハ直チニ修理ニ着手シ出来ノ上ハ沖繩縣下中城灣ヲ經テ
本隊ニ合スヘシ

明治二十八年五月廿二日

吳港ニ於テ

有地常備艦隊司令長官

佐世保

東郷西京丸艦長殿

同時佐世保鎮守府司令長官ニ西京丸修理大至急着手アラシコト
ヲ電報ニテ照會シ此情況ヲ大本營及樺山台灣總督ニ報告セリ
五月廿三日附ヲ以テ大本營ヨリ電令アリ

臨時敷設部ハ貴官ノ指揮下ニアル儀ト心得ヘシ

旗艦松嶋ハ樺山台湾総督ノ命ニ依リ五月廿三日宇品ニ回航ス同日左ノ命令ヲ領ス

名命第二號

一、名命第一號ノ命令中中城灣ヲ台湾淡水港ト改正ス

二、貴官ハ麾下艦船ノ中一隻ヲ中城灣ニ廻航セシメ若シ陸軍運送船ノ同灣ニ寄港スルモノアレハ直チニ台湾淡水港附近ノ集合地ニ廻航セシムヘシ

明治廿八年五月廿三日

台湾総督子爵樺山資紀

常備艦隊司令長官有地岳之允殿

依テ千代田艦長ニ左ノ命令ヲ味フ

旗令第二號

一、本官ハ樺山台湾総督ヨリ部下ノ一艦ヲ中城灣ニ寄港セシメ

陸軍運送船ニ直子ニ淡水港外ニ来ルコトヲ傳達スベキ命ヲ
受ケタリ

一、賣艦ハ沖繩縣下中城湾ニ寄港シ若シ大嶋及陸軍運送船ニシ
テ同湾ニ集合スルモノアルトキハ直子ニ台湾淡水港ノ北方
次凡十海里(小基隆ノ沖)ノ位置ニ来ルベキコトヲ大嶋及陸軍
運送船ニ傳達スヘキ旨ヲ中城湾ニアル吏員ニ依托シ淡水港
外ニ来リ本官ニ復命スヘシ

三、本官ハ来ル廿八日午前中ニハ名湾淡水港外ニ達セントス
四、樺山名湾總督ハ来ル廿八日迄ニ横濱迄ニテ淡水港外ニ達セ
ラルヲ望ナリ

明治廿八年五月廿三日

内田千代田艦長殿

有地常備艦隊司令長官

1543

又佐世保ニ於テ修理中ナル西京丸艦長ニ左ノ命令ヲ與フ

旗令第三號

一、貴船ハ修理出来次第飲用水其他ノ軍需品ヲ滿載シ淡水港ニ直航シ本官ニ會スヘシ

二、淡水港外ニ於テ本官若クハ他艦船ニ會スルコトヲ得サルトキハ澎湖嶋ニ至リ命ヲ待ツヘシ

明治廿八年五月廿三日

有地常備艦隊司令長官

東郷西京丸艦長殿

名命第一號ノ命令ハ名命第二號ヲ以テ改正セラレタレトモ既ニ浪速高千穂ノ二艦ハ前令ニ依テ長崎ヲ出發シタルノ後ニシテ命令ヲ改正スル能ハサリシモノ代田ノ中城灣ニ至ルアリ且ツ浪速

ニ乗艦セル福嶋陸軍大佐等は名湾総督府ヨリ察セラレタル電報
ニ依リ淡水ニ集合ノコトニ為レルヲ知レルナラント推算シ旗艦
松嶋ハ五月廿四日午前四時ヲ以テ宇呂港ヲ拔錨シテ名湾淡水港
ニ向ヘリ而シテ松嶋ハ航路異情ナク五月廿八日午前七時淡水港
外ニ碇泊ス

淡水港外ニハ艦隊司令官ノ旗艦浪速ノ碇泊スルアリ同司令官ヨ
リ淡水港ノ近状及浪速高千穂二艦ノ探宐シタル上陸点ニ関スル報告
ヲ呈ス

東郷司令官ヨリ進達ノ五月廿七日附淡水港近状報告左ノ如シ

上陸地点偵察報告

明治二十八年五月二十六日

常備艦隊司令長官有地呂之允殿

常備艦隊司令官東郷平八郎

淡水港外南岸陸兵上陸地点ハ別紙浪速艦長報告ノ通りA点ヲ適
当ト認ム然レモ若シ艦船ヨリ兵負或ハ物品揚陸中俄然西方ノ風
起ラハ非常ニ波濤高ク奮ニ困難ヲ来スノミナラス風波ヲ避クヘ
キ場所ハ勿論艦船ハ其端舟ヲ引揚クハ猶豫無カラシムルニ至ラン依テ此
地点ヨリ利用セハ充分ニ天候ノ平穩ナルヲ認メ揚陸ニ着手スルノ
外ナシ

三貂角上陸地点ハ別紙高千穂艦長報告ノ通北東風ノ外安全ナル

カ如し且ツ上陸地点ニ於ケル河川ハ風波ノ際小船艇ヲシテ危険
ヲ避ケシムルニ適シ當時季ニ於テハ南西風ヲ通常トス故ニ洪水
沿岸ハ揚陸中危険ノ患アリ然レモ三貂角上陸点ハ安全ニシテ適
当ナルヲ認ム
右報告候也

1546-2

浪秘第七號

報告

明治廿八年五月廿五日命ニ依リ淡水港附近ニ於テ良好ノ上陸点ヲ察見センガ為メ該港口ノ西ニ當レル海岸ヲ探リ港口ヲ距ル約五哩ノ処ニ適良ト認メタル地点ヲ得其近傍ノ水深ヲ測定シ一ノ略圖ヲ描ケリ但シ其際時間ヲ得ザリシ為メ投鉛ノ数少シト魚モ其近傍ニ於テハ危險物ナキヲ信ズ

據スルニ該所ハ海岸ノ水深能ク上陸ニ適シ岩礁等ノ危險ナク且ツ淡水港口ナル敵砲台ノ彈着外ニアリトス然レモ一旦北方ノ風起ルニ至レバ波浪忽チ強猛トナリ陸揚ヲ継続スル能ハザルノミナラズ時トシテハ艦船ハ其端艇ヲ引揚ガルノ暇ヲ得ザルノ不幸ヲ見ルニ至ラン

右略圖ヲ添ヘ此段報告仕候也

1546-J

明治廿八年五月廿六日

浪速艦長片岡大佐殿

右進達候也

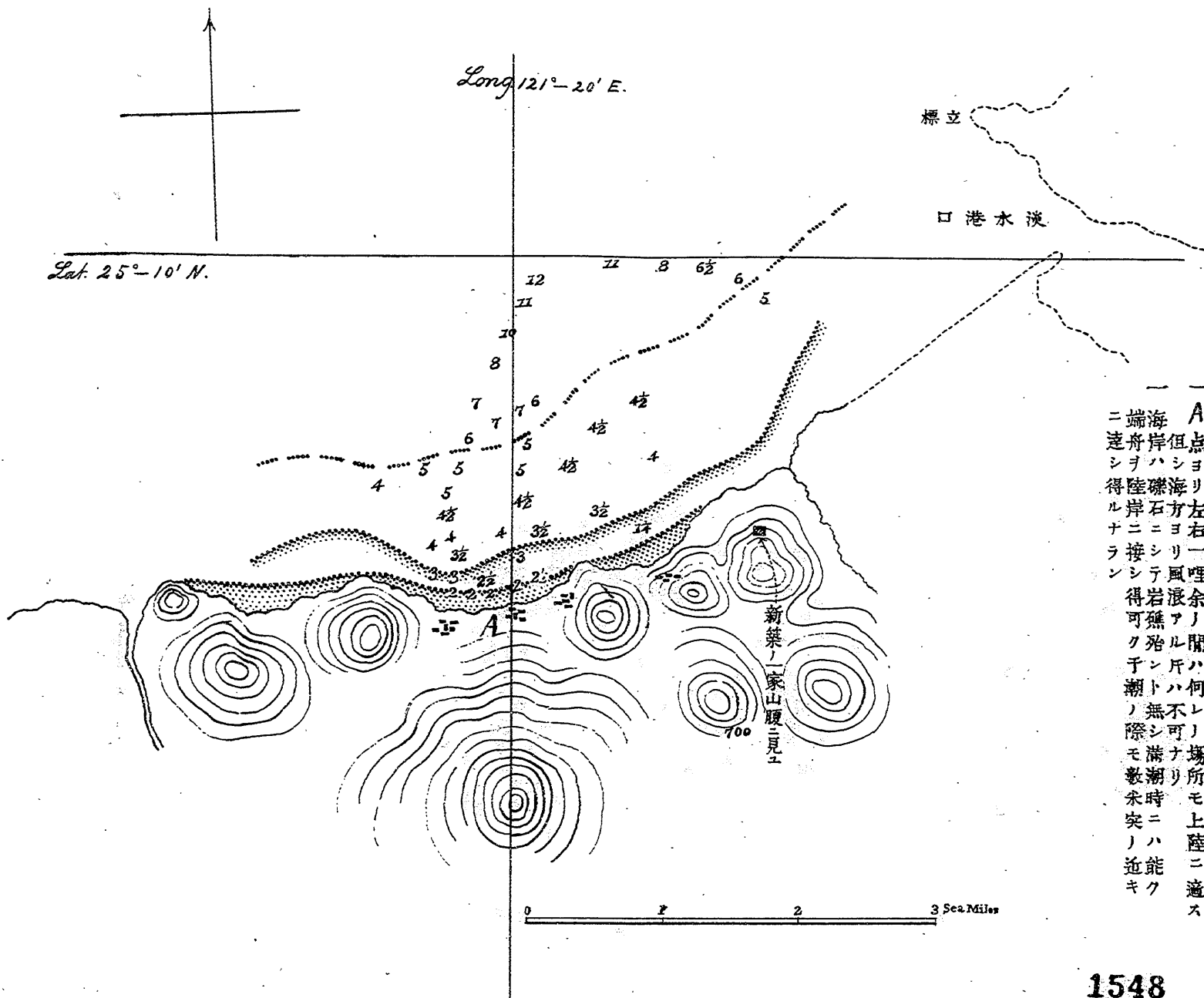
明治廿八年五月廿七日

浪速航海士松村少尉

浪速艦長片岡七郎

常備艦隊司令長官有地品之允殿

1547



一 A 点ヨリ左右一哩余ノ間ハ何レノ場所モ上陸ニ適ス
 二 海岸ハ礁石ニシテ岩礁ノ間ト無シ満潮時ニハ能ク
 端舟ヲ得ルナラン

1548

穂普第二五四號

パトウ角南湾上陸地探定報告

明治廿八年五月廿五日旗艦ノ命ニ依リ午后六時半パトウ角南湾
陸兵上陸地測量ノ為ノ單艦淡水泊地ヲ探シ翌廿六日午前七時
パトウ角南湾ニ達シ直チニ小蒸氣ヲ御シ湾内河口附近ノ鐘測ヲ為
サシノ本艦ハ湾ノ外方ヲ鐘測スルノ別紙略圖ノ如シ午前十時三
十分小汽艇鐘測ヲ終リ帰艦ス乃チ淡水ニ向テ出艦ス此日天候嶮
惡時々濛雨來リ殊ニ本湾ニ忌ムヘキ東北東風力ニニシテ波濤高
ク小艇測量ニ不便ナリシ
パトウ角南湾ハ北々西ヨリ正東ニ到ルノ間ハ全ク外洋ニ開放セ
ルヲ以テ風其ノ方向アリ來ル時ハ強大ナル波濤ノ為ノ上陸事業
ヲ為ス能ハズ湾ノ西岸ハ一般ニ岩涯ニアラザレバ直ニ山ヲ帶ビ
且ツ濱岸ニ接スル迄テ深キニ過クルヲ以テ揚陸場ニ適セザルカ

如シ

獨リ灣内河口ノ左岸ハ一休ニ最モ底キ砂堆ヨリ成リ後方ニハ平
坦ナル廣地ヲ有スルカ如ク其ノ前面ハ距岸ニ鑿ニシテ水深五尋
ニ達シ漸ク其ノ深サヲ増シ錨場宏闊ニシテ危險物ナク船多ノ船
ヲ泊スルニ適ス而シテ波濤ナキハ容易ニ小舟ヲ着岸セシムル
ヲ得ヘシ

河口ハ白沙堆ノ東端ニシテ其ノ幅約貳拾米突許近巨島ニ接スル
モ尚ホ河口ノ何レニアルヤヲ判別シ難シ測量ノ當時東北東風ノ
為メ波濤河口ニ卷擾シ水深又タ一尋ニ近カ、リシヲ以テ實地河
口ノ水深及ビ河ノ性質ヲ確ムルヲ得サリシモ其ノ附近ニ居合セ
タル土民數人ニ就テ聞ク處ニヨレハ水深河口ニ於テ二丈(清尺)我
一丈八尺ニ當ルナシカ少シク多キニ過ガルノ思アリ)上流ニ至
ルニ從ヒ河中ヲ増シ三貂ヨリ鷄籠ニ至ル道路ニ會スル迄ノミナ

1550

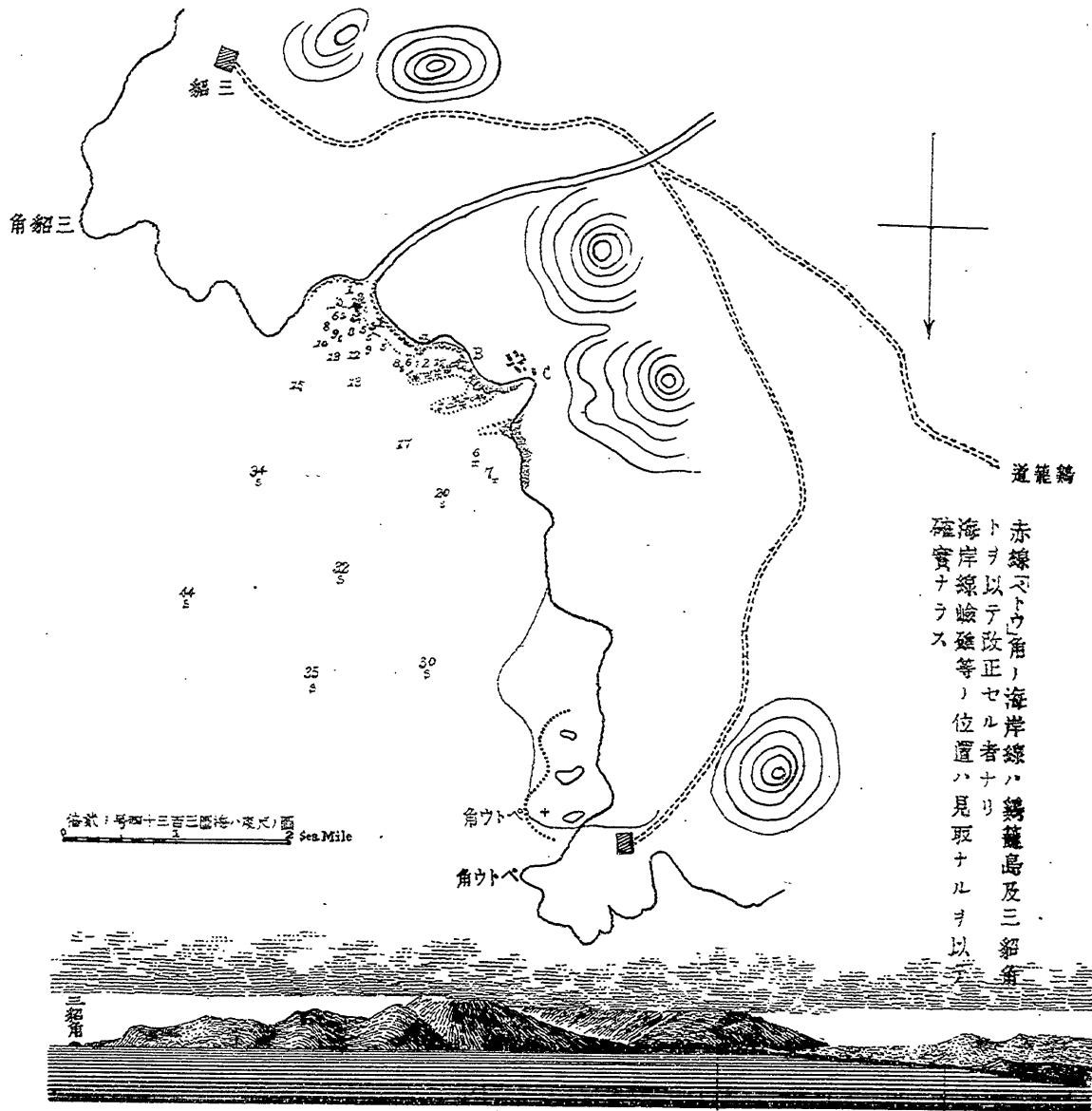
ラズ尚ホ遠ク小汽艇カモ通スルヲ得ト現ニ中形支那船ノ大帆ヲ
展シテ河口附近ヲ溯リツマアリシヨリ考フレハ水深ノ小汽艇ヲ
通カルハ信カルニ足ラン而シテ河口ハ右岸ニ近キ處ヲ以テ濤ト
ナスト云フ此錨場ニ入ルニハ宜シク西側ヲ避クベシ西側ニハ暗
岩露礁速ク嘴出スルヲ以テ頗ル危険ナリ而レトモ大概白波ヲ生
スルヲ以テ其ノ位置ヲ知ルベシ
白砂堆ノ西端一凹処Bナル処アリC及B角ヨリ嘴出スル処ノ岩
礁ニヨリ幾分カ外洋ヨリノ波濤ヲ減殺ス
此ノ附近中海岸ニ部落ヲ見ルハC一箇処ニシテ人家五六十戸支
那船數多其ノ濱岸ニアリ一船ニ動揺シ易キ丸木船ナレトモ又中
形ノ平低船五六隻ヲ認メタリ
住民ハ清人ニシテ其數割合ニ多ク其ノ閑遊スル処ヨリ推セハ役
夫多數ヲ徵聚スルニ容易ナラン体格ハ強健ノ相アリ

陸上ノ横様 陸上兵影ヲ見ガ其ノ有無ヲ問ハハ速クバトウ角方
面ヲ指シテ彼方ニ屯在スト云フノミ一体ニ平穩ニシテ農業及漁
業ニ後事ス而シテ蒸氣ノ来航スルヲ見驚キタル風ニテ多人数屋
外ニ出テ來テ遠望スルヲ認ム
右報告候也

明治廿八年五月廿六日

高千穂艦長 野村 貞

常備艦隊司令官 東郷平八郎殿



赤線以下ノ海岸線ハ鷓鴣島及三紹角
トヲ以テ改正セラル者ナリ
海岸線驗等ノ位置ハ見取ナルヲ以テ
確實ナラス

海尺：号四十三百三圖海、英尺、圖 Sea Mile



河ノ見ニ哩六東方東微南ヲ角紹三 岩露

浪秘第六號

明治廿八年五月廿六日午後第三時命ヲ奉シ英汽船「ホルモサ」號ヲ
訪問シ船長ニ面會ノ上陸上ノ模様ヲ尋問セントセシモ全船ハ今
將サニ拔錨セントスルニ會シ船内混乱シ充分ナル談話ヲ試ムル
ヲ能ハサルノミナラス速ニ拔錨センコトヲ欲シ其意ヲ得ヌ全船乘
客ノ形勢其他談話シ得タル者ヲ記シテ報告スルコト左ノ如シ
英國汽船「ホルモサ」號ノ乗客ハ多ク下等支那人ニシテ私有物品ヲ
携帶シ其數凡ソ七八十名アリ難ヨ本國ニ避クル者ノ如シ全船ハ
過日アモイヨリ當淡水港ニ航シ通常貨物ヲ搭載シテ再ヒアモイ
ニ歸港セントシ今内港ヨリ出港シタル者ニシテ船長ノ言ニ依ル
クハ昨廿五日日本軍艦ノ來着以來陸上ノ形勢頓ニ一變シ其擾亂
ヲ極ムルヲ殊ニ甚シク日本端艇ノ如キ上流ニ溯ラハ乱民ノ襲撃
ヲ蒙ルコト分明ニシテ其危險ナルベカラズ然レモ英獨兩國ノ軍艦

谷を艘上流ニ在泊シ居レリ居留地ノ如キモ亦安全ト云フヲ得
又今廿六日乱民ハ一致シテ謀反ヲ企テ共和國ヲ建立シ (Blue
Paper) ノ旗ヲ砲台ニ懸シ正午廿一零ノ祝砲ヲ放テリ然レモ英
獨軍艦ヨリハ祝砲ヲ施行セズ且ツ乱民ノ頭梁ハ誰ナルヤ分明セ
サルモ其兵數ハ三万乃至八万アリテ全嶋ニ散布シ其實數ヲ確
ル一能ハズト其他清國ヨリ台湾割讓委員トシテ李經羲來リシヤ
ヲ尋問セシニ未タ到着セザルモ不日來嶋スルナラント
右報告候也

明治廿八年五月廿六日

海軍大尉 小花三吉

浪速艦長 海軍大佐 岸岡七郎殿

1555

右進達候也

明治廿八年五月廿七日

常備艦隊司令長官有地品之允殿

浪速艦長片岡七郎

1556

昨夜ペトウ角湾へ廻航セントシテ基隆港外通過之際同処ニ電汽
燈ヲ点スルヲ認メ今日帰航之節同港内ニ白塗セル軍艦一隻碇泊
スルヲ実見致条合セテ及報告也

明治廿八年五月廿六日

東郷常備艦隊司令官殿

野村高千穂艦長

1557

英國砲艦訪問始末

五月廿五日午前十時淡水港到着先ウ最初ニ陸上ノ模様如何ヲ偵知シ然ル後陸上ノ交通ヲ開カント欲シ艦尾ノ上流ニ在泊セル英艦ニ至リ陸上支那兵アリヤ否又人民擾乱ノ模様アリヤ否又各外國領事ノ在否如何ヲ尋問シ來ルヘキ御命令ニ依リ英語通譯官佐野友三即支那語通譯官澤谷仙太郎ヲ伴々即時汽艇ニテ浪速ヲ發セシニ一艘ノヨマンクニ違ヒシヨリ先ウ汽艇ヲ之ニ着ケ陸上ノ模様ヲ尋問セシモ要領ヲ得ヌ更ニ河口ヲ溯ルニ數多ノ支那兵右岸ノ砲台ニ據守シ又其岸邊ニ接セル旧造砲台(四行半乃至六行伍ノ滑膛砲七門ヲ備ヘリ)ノ一門ニ彈丸ヲ裝填シテ我艇ノ近接セルヲ待ツモノ、如ク頗ル危険ノ状況アリシモ此場合ニ臨ミ我艇邊懸遠巡セハ却テ災厄ヲ招クノ恐レアルヲ察シ只一直線ニ上

流ヲ指シテ遡リシニ彼散テ発砲セサリキ河中ニハ數多ノヨマン
クト汽船四艘(後達飛捷其他二艘)獨逸及英國ノ砲艦各一艘アリ岸
上支那兵ノ數々東西ニ奔走スルヲ見ル支那街ニ接シ數多ノ支那
人所々ニ佇立群集シ我艇ノ來ルヲ見テ甚タ驚キタル有様ナリキ
汽艇ハ本艦ヲ突セシヨリ約一時間ニシテ英艦ニ達スルヲ得タリ
英艦ノ名ヲロツドブレストト云フ今左ニ英艦ニ至リ問答セシ所
ヲ記ス

問 予ハ日本帝國軍艦浪速ナル司令官ノ參謀大尉ナリ司令官
ハ予ニ命スルニ貴艦ニ至リ陸上ノ模様ヲ聞キ合スベキコ
トヲ以テセリ未ダ公訪ヲ歴サルニ甚タ卒爾ノ段ハ諒察セ
ラレタシ

答 (死任大尉)只今艦長不在ナルヲ以テ予ハ責任ヲ帶ヒテ貴下
ノ問ニ答フル能ハス艦長ハ先刺領事館ニ至レルヲ以テ最

早歸艦スルナラン艦長ハ精細ナル報告ヲ貴下ニ與フルコ
トヲ得ルナラント信ス差支ナクハ艦長ノ歸艦ヲ待タレ間
敷哉

問 予ハ少々急クヲ以テ敢テ貴下ニ問ント欲ス陸上ニハ支那
ノ兵隊アリヤ

答 有リ其數ヲ審ニセヌ

問 支那兵若クハ乱民等ノ居留人民ヲ騷擾セシコトナキヤ

答 過ル頃支那兵察鏡シテ騷擾セシコトアリシモ昨今ハ至極
平穏ナリ

問 貴艦ヨリハ領事館ヲ保護スル為メニ水兵ヲ上陸セシメタ
ルヤ

答 水兵ヲ上陸セシムル必要ヲ認メヌ

問 当地ニ何々國ノ領事ヲ留スルヤ

答 英米獨三國ノ領事現在セリ佛ノ領事ハ當時不在ナルモ不

日中ニ来ルトノコトナリ

問 貴艦ハ何日ヨリ当地ニ来泊セルヤ

答 四月十一日ヨリ来泊セリ

右ノ問答ニヨリ使命ノ要領ヲ得タルヲ以テ辭ヒテ帰ラントセシ
ニ彼士官ハ予カ名刺ヲ乞ヒ且ツ我西艦及ヒ司令官ノ名ヲ尋子シ
ニ依リ予カ名刺ノ側ヲ一々之ヲ記シテ其ハタリ該士官ノ應接
ハ頗ル慇懃ニシテ毫モ隔意アルヲ認メサリキ

午前十一時四十五分英艦ヲ離レ帰途ニ就ク市街ノ岸ヨリ河中ニ
突出セル石造ノ棧橋アリ我艇之ヲ距ルコト約百メートルノ所ヲ
過ク其側ニ兵隊ノ屯營ラシキモノアリ三十人許ノ支那兵小銃ヲ
携ヘ棧橋ニ出テ或ル者ハ両手ヲ以テ帽子ヲ打振り大音ヲ揚ケテ
頻リニ我艇ヲ招クモノ、如ク又或者ハ探鏡ノ準備ヲナスモノニ

1561

似タリ予カ任務ハ敢テ之ニ近ツクノ必要ナキヲ以テ直ニ河口ヲ指シテ下リシニ支那兵更ニ我艇ヲ追フテ岸上ノ沿道ヲ走り來ルヲ見ル彼レ速力遂ニ汽艇ニ及ハスシテ止ム

水雷營ノ機橋ニハ五百斤位ノ水雷罐(円錐形)二個沈錘二個並ニ海底電纜ノ輜車一個アルヲ認ム既ニシテ繁茂セル草木中ニ一小屋ノアル所ヲ過ク小銃ノ声ニ三發ヲ聞キ且ツ察煙ヲ認ム彈丸ハ何レニ飛ビ去リシヤ不明ナレトモ一丸空中ヲ掠メ去ル鳴響アリシヲ聞ク且ツ所々ニ兵隊ノ散在シアルヲ認ム

(附)河口ヲ出ルコト凡ソ三千メートルニシテ高千穂ノ汽艇ニ逢フ布設水雷ノ有無ヲ探索スヘキ命ヲ受ケテ水雷營附近ニ行カントスルナリ彼士官陸上ノ模様如何ヲ予ニ問ヒシニ依リ予ハ之ニ答フルニ支那兵小銃ヲ携帶シテ東西ニ奔走セリ或ハ彼レヨリ発砲スルヤモ知レス驚戒スベキ旨ヲ告ケテ別レ

タリ

帰艦後高千穂ノ汽艇帰り山屋大尉復命シテ白ク支那約ニ小隊
許リ河口ナル岸邊ノ繁茂セル草木中ニ埋伏シテ一齊射撃三四
ニ及ヒ其彈丸汽艇ヲ距ルコト約百メートルノ所ニ落テ更ニ
近ツキ進キヲ以テ引返シタリト
以上ノ結果ニヨリ思考スルトキハ支那兵ハ我ニ對シ充分ノ
敵意アリテ容易ニ近ツクベカラサル形勢ヲ表白セルモノナ
リ

以上

明治廿八年五月二十五日

常備艦隊參謀 金屋忠道

常備艦隊司令官 東郷平八郎 殿

1563

当時淡水港ニ碇泊ノ艦船ハ浪速ノ外英國砲艦コックブレスコックブレス一號
獨國砲艦「ルチ」ルチ一號及獨國商船一隻ニシテ浪速高千穂二艦ハ去
ル五月廿五日当港外ニ投錨浪速ハ止ツテ淡水附近ノ上陸点ヲ探
リ高千穂ハ廿五日夕ヨリ三貂角附近ノ上陸点探見ニ赴キ廿六日
ニ再ヒ淡水ニ投錨シ廿七日司令官ヨリノ諸報告ヲ以テ沖繩縣中
城灣ニ赴ケリ

又浪速ノ報ニ依レハ瀨尾ノ方向ニ当リ時々砲声ヲ聞キタリト

五月廿八日ハ早朝ヨリ瀨尾ノ高丘ニ在ル砲台及兵營及東方ノ高
原ニ無数ノ旗幟翻々タリ夕刻ニ至ツテ之ヲ撤ス

五月廿八日午後九時樺山台湾総督横濱丸ニテ淡水港外ニ着セテ
ル即時本官ハ幕僚ヲ率ヒテ伺候ス

此時総督ヨリ左ノ命令ヲ口授セラル

一近衛師團ノ半部ハ中城灣ヲ經テ航進シツ、アリ東經百二十

二度北緯廿五度二十分ノ地点ニ於テ明廿九日午前六時迄ニ
集合ス

二、艦隊ハ明廿九日未明拔錨一項ノ集合点ニ至リ運送船ヲ纏メ
テ三貂角上陸点ニ至リ近衛師團長ト協議シ陸兵ノ揚陸ヲ助
クハシ

三、横濱丸ハ列外ニ在ツテ艦隊ト進退ヲ共ニス

五月廿九日午前五時松嶋浪速淡水港拔錨運送船集合点ニ向フ横
濱丸モ同時拔錨シテ列外ニアツテ進ム途中濃霧ニ逢フテ横濱丸
ヲ失ヒ午前十時霧少シク晴レ集合点ニ横濱丸及運送船十二隻ニ
會シ三貂角ニ導ク時ニ霧再ヒ来リ速方ノ船数隻ハ信號ヲ為スモ
解シ得ヘカテ不會マ横濱丸ヨリ浪速ヲシテ運送船ノ後トヨリ来
ラシメヨト信號アリ依テ之ヲ浪速ニ傳達ス霧深クシテ三四分

「ル」以外ヲ識別シ能ハザリシカ五午霧少シク晴レ三貂灣ヲ認ム
 ルヲ得、午後一時十分同灣ニ投錨ス各運送船モ統テ入港シ浪速最
 後ノ運送船ヲ導テ入港シタルハ午後二時ナリ
 午後一時二十五分出羽參謀長ヲシテ近衛師團司令部ノ乘船薩摩
 丸ニ出張陸兵揚陸ノ事ヲ協議セシム其結果左ノ如シ
 一、揚陸点ノ偵察ハ海軍ニ於テ為スヲ要セス
 二、松島ヨリ小汽艇ピン子ース及カウター二隻ヲ佐倉丸ニ送り
 浪速ヨリ小汽艇ピン子ース及カウター二隻ヲ豊橋丸ニ送り
 一ハシ
 而シテ豊橋丸カ所属艇船ヲ以テ三貂灣ノ砂瀨ニ上陸ヲ初メタル
 ハ午後一時三十分ニシテ同時松嶋浪速ノ諸艇モ各其指定セラレ
 タル運送船ニ赴ケリ
 斯クノ如クシテ漸次各運送船ヨリ歩兵ノ上陸スルモノ陸続砂瀨

ヨリ上陸ヲ企テシカ逆浪ノ為メ上陸甚タ危険ニシテ端艇ノ如キ
 ハ到底陸岸ニ着ル能ハサルヲ見ル又運輸通信部ハ灣底ノ川口ニ
 於テ上陸点ヲ定メ國旗ヲ立テ、目標トセリト雖トモ逆浪ハ危險
 ハ毫モ砂濱ト異ナルナシ依テ午後二時三十分灣ノ西隅ニ於テ最
 モ逆浪少シト認メタル岩礁間ニ上陸点ヲ定メントシ松嶋及浪速
 ヨリ兵員各二十名ト石炭袋五十個ヲ送り仮リニ上陸用波止場ヲ
 建設シ午後六時四十分ニ落成セシヲ以テ之ヲ陸軍ニ引渡シ爾來
 此地点ヲ以テ上陸場ト為セリコレ字洩底ト稱スル所ニシテ午後
 二時五十分頃小戦アリシ所ノ濱辺ナリ

此日左ノ命令及訓令ヲ領ス

命令 明治廿八年五月廿九日午後三時三銘角鎗地ニ於テ

一 貴官ハ麾下艦隊ヨリ水雷兵若干名ヲ師團ト共ニ陸路ヨリ派
 遣シ基隆港略取ノ後港口布設ノ水雷ヲ安全ナラシムハシ

1567

二貴官ハ師團長ト懷議シ豫メ基隆港攻撃ノ時機ヲ定メ牽制砲撃ヲ為スヘシ

三師團基隆港ヲ占領セハ直ニ港口ノ水雷ヲ撤去シ運送船ヲ港内ニ導クヘシ

台湾總督子爵樺山資紀

常備艦隊司令長官有地品之允殿

訓令 明治廿八年五月廿九日午後三時三貂角錨地ニ於テ

陸揚中風浪其他ノ為メ一時本錨地ヲ離去スルトキハ北緯二十五度四分東經百二十三度五分(即チ三貂角ヨリ正東約六十哩)ノ地ヲ以テ集合点ト定メ事止ムノ後ハ再々原錨地ニ帰泊スヘシ
但本集合点ハ其艦ヨリ各艦船ニ通スヘシ

台湾總督子爵樺山資紀

常備艦隊司令長官有地品之先殿

右訓令ハ即日各艦船ニ通達ス

此日左ノ命令ヲ松嶋艦長ニ與フ

旗令第四號

命令

一、近衛師團ノ基隆港ヲ略取シタル後直チニ水雷衛隊等ノ有典ヲ搜索セシメ我艦船ノ入港ニ際シ危險ヲ受ケシメサルノ手暇ヲ施サシムルノ目的ヲ以テ人負ヲ派遣セントス依テ左ノ人負ニ必要ノ器具ヲ携帶セシメ近衛師團ノ進發ト同時ニ派遣セシムヘシ

水雷長

准士官(掌水雷長)

下士(掌水雷兵五、掌砲兵三)

卒

十

二谷自糧食一日分ヲ携帶セシメ其後ニ於ケル糧食ノ配給ハ陸軍ニ於テ為ス事ニ悞議シ置ケリ又宿營ハ陸軍ノ指揮ヲ受クヘシ

三上陸シタルトキハ人民ノ私有ニ係ル物品ヲ掠奪スルハ勿論猥リニ民家ニ出入シ又ハ良民ノ生命ニ危害ヲ加ル所為若クハ風俗ヲ壞乱セシメサルコトニ注意セシメ部下諸員ニ堅ク謹戒ヲ加ヘ一点ノ瑕瑾ナカラシムヘシ

四基隆占領ノ當日ハ本官ハ同港外ニ於テ水雷壱所ノ搜索ニ係ル報告ヲ得ントス而シテ部員ノ進退ハ其際更ニ命令セントス

明治廿八年五月三十日 三貂角上陸点ニ於テ

有地常備艦隊司令長官

日高松島艦長殿

五月三十日後着ノ陸軍運送船及千代田ヲ導カシメンカ為メ浪速
ヲ淡水方面ニ出ス

此日陸軍揚兵用トシテ松嶋及浪速ノ小汽艇ヲ出ス

午後三時浪速陸軍運送船四隻ヲ卒ヒテ三貂灣ニ入ル千代田及海
軍運送船萬國丸モ亦入港ス

此日左ノ命令ヲ領ス

命令 明治廿八年五月廿日午後四時三十分三貂角錨地ニ於テ

貴官ハ麾下ノ軍艦一隻ヲ淡水港ニ派遣セシメ清國全權委員李
經芳到着シアラハ本官ノ書状ヲ渡シ又河野浦丸同港ニ至レハ
直ニ三貂角上陸点ニ回航スヘキコトヲ傳達スヘシ若シ李經芳
六月三日迄ニ到着セサルトキハ艦隊所在地ニ帰航セシムヘシ

常備艦隊司令長官有地呂之九殿

此ニ於テ左ノ命令ヲ千代田艦長ニ與フ

旗令第五號

命令

一、台湾總督府ノ人貨ヲ搭載シタル河野浦丸ハ去ル廿七八日頃
佐世保軍港ヨリ出帆シ又清國全權委員委經芳モ淡水ニ來ル筈
ナリ依テ貴艦ハ明三十一日当所拔錨淡水港ニ至リ李經芳ニ
別封書狀ヲ渡シ又河野浦丸ニハ直千ニ三貂角上陸点ニ來ル
ヘキコトヲ傳達スヘシ

二、前項ノ任務ヲ果ス迄ハ淡水港ノ砲台彈着巨霽外ニ碇泊若クハ漂泊發見
シアルヘシ而シテ六月三日迄ニ任務ヲ果ス能ハサルキハ艦隊所在地ニ帰航スヘシ
三、本官ハ基隆港若クハ三貂角上陸点ニアルヘシ

明治廿八年五月三十日

内田千代田艦長殿

有地常備艦隊司令長官

五月三十一日午前四時五分千代田於水ニ向テ出港ス
陸軍運送船薩戸丸ニ本邦ニ帰航スルノ便ヲ以テ左ノ命令ヲ西京
丸艦長ニ與フ

旗令第六號

命令

本官ハ基隆港若クハ於水港ニアルヘシ依テ貴船修理出来ノ
上ハ直チニ本隊ニ合スヘシ

明治廿八年五月三十一日

有地常備艦隊司令長官

1573

東郷西京丸艦長殿

在澎湖嶋混成枝隊ヲ召回セラル、為メ陸軍運送船四隻ヲ澎湖嶋
へ回航セシメラル、ノ便ニ托シ左ノ命令ヲ近江丸艦長ニ共ニ

旗令第七號

命令

- 一、我艦隊ノ小蒸汽船ハ淡水河口ニ於テ敵ノ射撃ヲ受ケタリ而
シテ台湾内地ノ状況ハ甚カ擾乱セルモノ、如シ
- 二、台湾總督ハ先ツ台湾ノ北部ヲ鎮壓シ臺北ヲ以テ駐劄ノ地下
定メラントス
- 第三、次ニ到着シタル近衛師團ノ半部ハ去ル廿九日ヨリ三貂
角西方ノ濱ヨリ上陸ヲ始メ微弱ナル敵ヲ撃退シ明一日ヨリ
基隆ニ向テ前進ヲ始メ我艦隊モ之ト協力シ来ル三日基隆港
ヲ奪取スルノ豫定ナリ

- 三、混成枝隊ノ二中隊ヲ澎湖島ノ守備ニ充テ残余ノ部隊ハ總テ基隆港ニ集合セシメラル、為メ運送船ヲ其港ニ派遣セラル
- 四、貴官ハ病院船神戶丸及工作船元山丸ヲ本隊所在地ニ來航セシムヘシ
- 五、神戶丸ヨリ陸上ニ派遣シアル人負アラハ總テ歸船セシメ又工作船元山丸ニ於テ修理着手中ノ工事アラハ速カニ終了セシメ然ル後回航セシムヘシ
- 六、混成枝隊長及民政廳長官ヨリ人負便乘ノ依托アリタルトキハ惡疫感染ノ恐レナキ將校以上及民政廳吏員ニ限り便乘ノ便宜ヲ許フヘシ
- 七、貴船第四水雷艇隊及水雷布設隊ハ其港ニアルヘシ
- 八、本官ハ基隆港占領ノ後チハ同港ニアル豫定ナリ否ヲサレハ三貂角上陸点ニアルヘシ